

Business Overview

事業概況

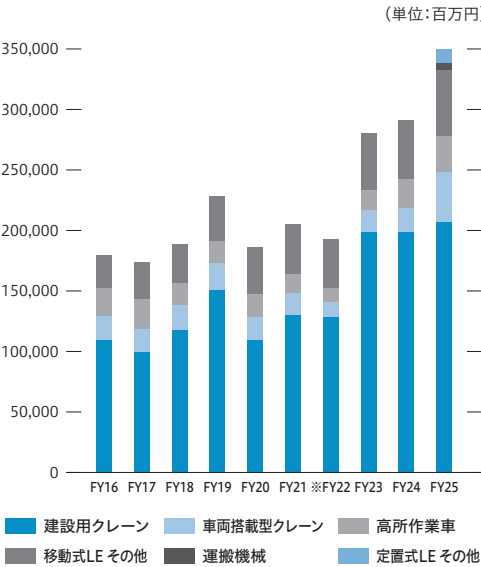
製品別売上高

製品別売上高は、建設用クレーンの売上高が2,071億3千3百万円(前期比103.9%)、車両搭載型クレーンが405億5百万円(前期比208.4%)、高所作業車が300億5千3百万円(前期比123.8%)、その他が662億7千7百万円(前期比136.7%)とすべての製品にて前期に比べて売上高が増加しました。

なお、2025年7月に買収が完了したIHI運搬機械株式会社の運搬システム事業(現:タダノインフラソリューションズ)の品目が増加したことに伴い、新たに「運搬機械」の項目を新設しています。運搬機械の売上高は、55億7百万円(前期比-)となりました。

この結果、2025年度の売上高は過去最高となる3,494億7千7百万円(前期比119.9%)となりました。

製品別売上高(16年度～25年度推移)

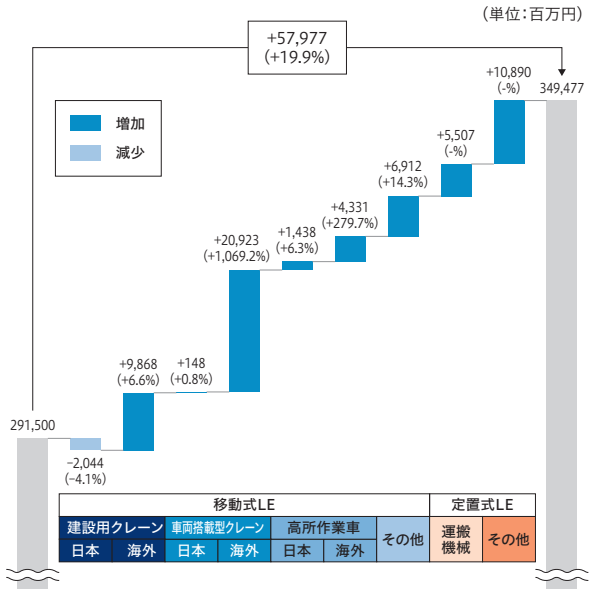


※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。

製品別売上高(24年・25年比較)

	24年 1-12月	25年 1-12月	対前年	
			増減額	増減率
建設用クレーン	199,308	207,133	7,825	3.9%
日本	50,048	48,004	-2,044	-4.1%
海外	149,260	159,128	9,868	6.6%
車両搭載型クレーン	19,433	40,505	21,072	108.4%
日本	17,476	17,624	148	0.8%
海外	1,956	22,880	20,923	1,069.2%
高所作業車	24,283	30,053	5,770	23.8%
日本	22,734	24,173	1,438	6.3%
海外	1,548	5,880	4,331	279.7%
その他	48,474	55,387	6,912	14.3%
移動式LE(小計)	291,500	333,079	41,579	14.3%
運搬機械	-	5,507	5,507	-
その他	-	10,890	10,890	-
定置式LE(小計)	-	16,397	16,397	-
総計	291,500	349,477	57,977	19.9%

25年製品別売上高増減(24年比)



地域別売上高

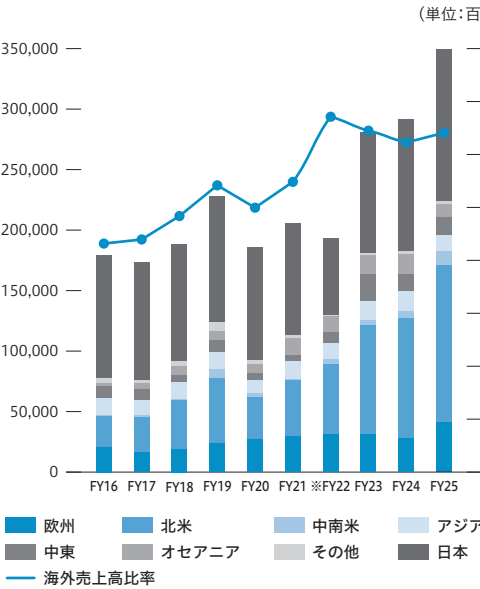
北米1,298億7千万円(前期比131.2%)、中南米118億7千2百万円(前期比217.1%)、欧州411億3千1百万円(前期比144.3%)、その他の地域27億9百万円(前期比163.9%)は前期を上回る売上高でした。中東149億6千5百万円(前期比97.9%)、オセアニア106億1千5百万円(前期比67.2%)、アジア128億8千6百万円(前期比80.9%)は前期を下回りました。

日本においては1,254億2千6百万円(前期比114.2%)と売上高は増加しました。海外売上高比率は、64.1%(前期62.3%)となりました。

地域別売上高(24年・25年比較)

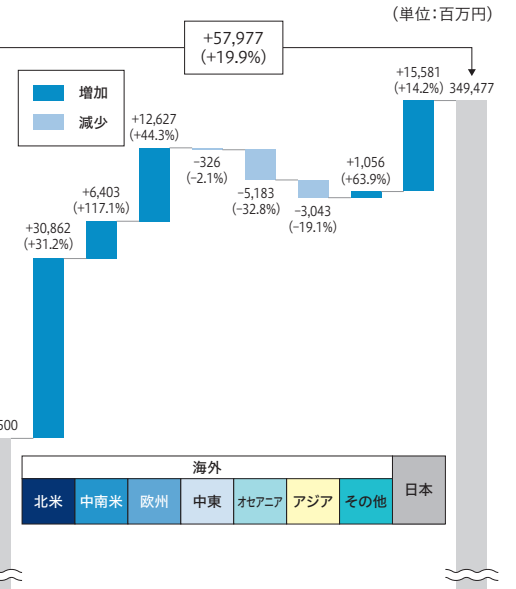
	24年 1-12月	25年 1-12月	対前年	
			増減額	増減率
北米	99,007	129,870	30,862	31.2%
中南米	5,468	11,872	6,403	117.1%
欧州	28,503	41,131	12,627	44.3%
中東	15,292	14,965	-326	-2.1%
オセアニア	15,798	10,615	-5,183	-32.8%
アジア	15,930	12,886	-3,043	-19.1%
その他	1,653	2,709	1,056	63.9%
海外計(小計)	181,654	224,050	42,396	23.3%
日本	109,845	125,426	15,581	14.2%
合計	291,500	349,477	57,977	19.9%
海外売上高比率	62.3%	64.1%		

地域別売上高(16年度～25年度推移)



※その他には、アフリカ、CISを含んでいます。
※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。

25年地域別売上高増減(24年比)



建設用クレーン

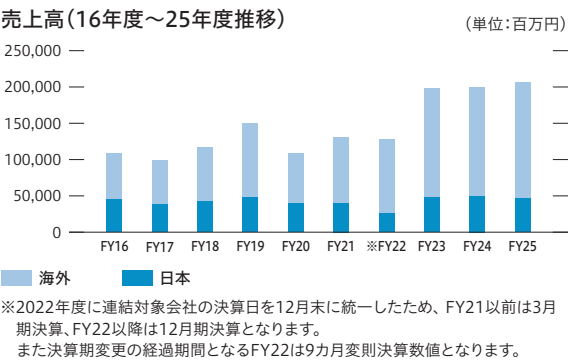
01 | Mobile Cranes



売上高

日本向け売上高は、大規模工事が実施・計画されているものの、慢性的なオペレーター不足や資材価格高騰の影響等もあり、480億4百万円（前期比95.9%）となりました。海外向け売上高は、一部地域を除き、ここ数年の急速な需要増加基調に落ち着きが見え始める中、販売に注力した結果、1,591億2千8百万円（前期比106.6%）となりました。この結果、建設用クレーンの売上高は2,071億3千3百万円（前期比103.9%）となりました。

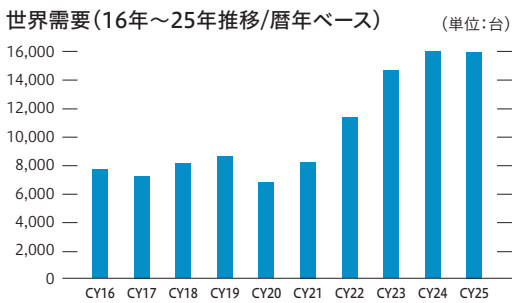
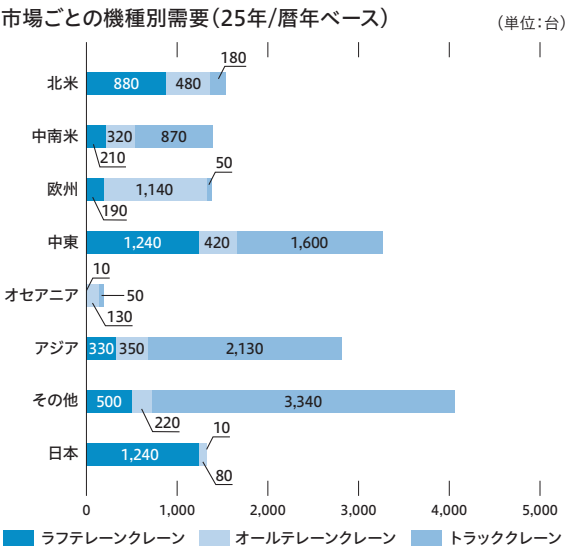
売上高(24年・25年比較)		(単位:百万円)		
	24年 1-12月	25年 1-12月	前年比較	
			増減額	増減率
日本	50,048	48,004	-2,044	-4.1%
海外	149,260	159,128	9,868	6.6%
合計	199,308	207,133	7,825	3.9%



需要とシェア(台数ベース)

2025年の世界全体(中国市場を除く)の建設用クレーン(ラフテレーンクレーン・オールテレーンクレーン・トラッククレーン)需要は、前期比100.4%とほぼ横ばいでした。タダノ製品の世界全体におけるシェアは、前期の13%から1ポイント減少した12%となりました。

需要・シェア(24年・25年比較)					
	需要		増減率	シェア	
	24年 1-12月	25年 1-12月		24年 1-12月	25年 1-12月
北米	1,500台	1,540台	2.7%	40%	40%
中南米	1,500台	1,400台	-6.7%	2%	2%
欧州	1,540台	1,380台	-10.4%	6%	5%
中東	2,580台	3,260台	26.4%	8%	6%
オセアニア	190台	190台	0.0%	31%	18%
アジア	2,650台	2,810台	6.0%	6%	4%
その他	4,560台	4,060台	-11.0%	0%	1%
海外計	14,520台	14,640台	0.8%		
日本	1,380台	1,330台	-3.6%	61%	59%
合計	15,900台	15,970台	0.4%	13%	12%



※数値は当社推計(10台単位にて四捨五入) ※その他には、アフリカ、CISを含んでいます。
※ロシア国産は含んでいません。 ※中国国産の輸出は含んでいます。
※中国国産の中国市場向けは含んでいません。

製品紹介



ラフテレーンクレーン

タダノの技術の粋を集めた主力製品。一つの運転席で走行とクレーン操作が行える自走式クレーンです。不整地や軟弱な地盤でも走行ができるほか、その小回り性を活かし、市街地や狭隘地などの現場でも活躍しています。海外では主に大規模プラントの建設・メンテナンスに使われています。



オールテレーンクレーン

高速道路や橋梁工事などのインフラ整備、大型プラントやビルといった建築やメンテナンス工事などの現場で活躍する大型クレーンです。舗装道路から不整地まであらゆる路面に適応し、大きなクレーン能力を持ちながら、後輪もしくは全輪軸操舵機能により小回り性にも優れています。



トラッククレーン

専用または汎用トラックに架装したクレーンです。走行用とクレーン用の運転室が個別に設けられています。トラック同様迅速に作業現場まで自走し、クレーン作業を開始します。海外では高速走行性をもつ大型クレーンとして使われ、メンテナンスの容易性、コストパフォーマンスの高さから北米、新興国で高く評価されています。



伸縮ブーム式 クローラクレーン

広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリヤの低重心の利点を活かし、高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの設置現場で荷を吊ったまま走行し、その強さを発揮します。



ラチスブーム式 クローラクレーン

より大きな吊り上げ能力を必要とする現場に適したクレーンです。他のタイプのクレーンよりも大きな吊り上げ能力(最大3,200トン)を備えており、高負荷時にも優れた操作性を保持することができます。その大きさにも関わらず、分解することで輸送が容易となり、高まるクリーンエネルギー需要を背景に、風力発電関連工事をはじめ、世界各地で活躍の場を広げています。

Business Overview

車両搭載型クレーン

02 | Truck Loader Cranes



売上高

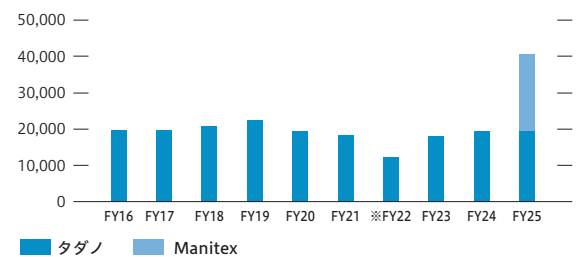
日本向け売上高は、トラック登録台数が減少する中、架装能力向上により176億2千4百万円(前期比100.8%)となりました。海外向け売上高は、Manitex社買収による売上も加わり、228億8千万円(前期比1,169.2%)となりました。この結果、車両搭載型クレーンの売上高は405億5百万円(前期比208.4%)となりました。

Manitex社買収により、車両搭載型クレーンのラインナップにブームトラックとナックルブームクレーンが加わりました。ブームトラックは主に米国市場で需要があり、米国で生産し米国市場を中心に販売しています。ナックルブームクレーンはイタリアで生産し、欧州・中南米を中心に販売しております。こちらは世界各国で需要があり、販売体制の強化と拡販を進めています。

売上高(24年・25年比較) (単位:百万円)

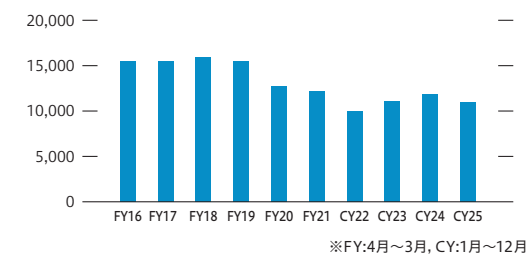
	24年 1-12月	25年 1-12月	前年比較	
			増減額	増減率
日本	17,476	17,624	148	0.8%
海外	1,956	22,880	20,923	1,069.2%
合計	19,433	40,505	21,072	108.4%

売上高(16年度～25年度推移) (単位:百万円)

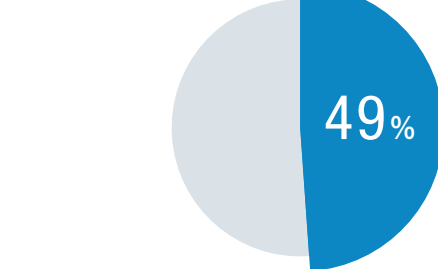


※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。
また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。

日本需要(16年度～25年度推移) (単位:台)



日本台数シェア(25年度)



カーゴクレーン



TM-ZX294

ブームトラック TC65159

運輸業や造園業、建設業など、さまざまな業種のお客さまの荷役作業に使われている一番身近なクレーンです。トラックキャブの後ろなどに架装したもので、幅広い種類のトラックへの架装と豊富なクレーンのラインナップを取り揃えて多様なニーズに応えています。



ナックルブームクレーン PM 23.5 SP

高所作業車

03 | Aerial Work Platforms



売上高

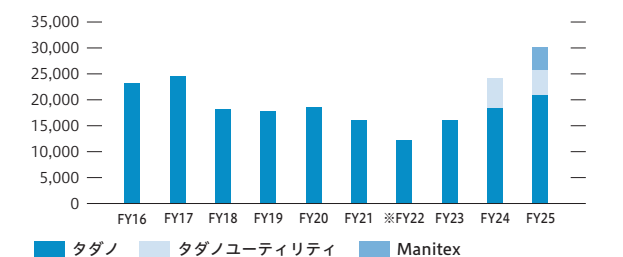
日本向け売上高は、レンタル向け販売が好調に推移し、241億7千3百万円(前期比106.3%)となりました。海外向け売上高は、Manitex社買収による売上も加わり、58億8千万円(前期比379.7%)となりました。この結果、高所作業車の売上高は300億5千3百万円(前期比123.8%)となりました。

2024年の長野工業株式会社(現:タダノユーティリティ)買収により自走式高所作業車が新たに加わりました。また、2025年のManitex社買収では、これまで当社が主力としてきたトラック架装式高所のラインナップを拡充しました。

売上高(24年・25年比較) (単位:百万円)

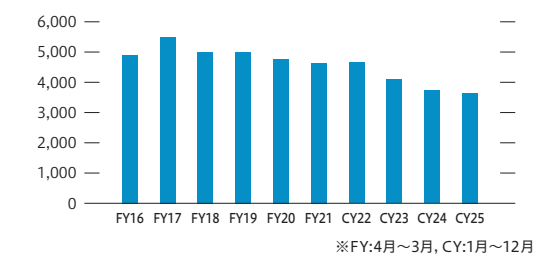
	24年 1-12月	25年 1-12月	前年比較	
			増減額	増減率
日本	22,734	24,173	1,438	6.3%
海外	1,548	5,880	4,331	279.7%
合計	24,283	30,053	5,770	23.8%

売上高(16年度～25年度推移) (単位:百万円)



※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。
また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。

日本需要(トラック架装式16年度～25年度推移) (単位:台)



日本台数シェア
(トラック架装式 25年度)



製品紹介



SNAKE 2010 H Plus

自走式



eAA-22C

トラック架装式



AT-400CG

「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。当社では、先進の制御技術で操作の簡便化、操作性の向上を推進しています。特に一つのレバーでデッキが垂直移動・水平移動できる世界初の「4軸協調制御」技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。

運搬機械

04 | Transport Machinery



IHI運搬機械株式会社の運搬システム事業を買収

2024年11月、IHI運搬機械株式会社の運搬システム事業（現：タダノインフラソリューションズ）をグループ会社化することを決定し、2025年7月に買収手続きを完了しました。タダノグループは「移動式クレーン」の分野では長い歴史とグローバルでの販売実績を有していますが、同事業が有する「定置式クレーン（港湾クレーン・タワークレーン）」は新たな製品群となります。また、当社グループがドイツで生産する「ラチスブーム式クローラクレーン」とも親和性があり、世界中でニーズが高まっている洋上風力発電分野等においても今後の活躍が期待される「リングリフトクレーン」も有しています。当社グループの事業領域（LE：Lifting Equipment）における新事業分野への挑戦として本事業を買収することとしました。

売上高

運搬機械の売上高は、IHI運搬機械株式会社の運搬システム事業（現：タダノインフラソリューションズ）買収により、55億7百万円（前期比－％）となりました。

製品紹介

バルクハンドリングシステム



鉄鉱石、石炭、バイオマスペレットや穀物など各種原材料の荷役作業を効率的に行う連続アンローダ・ニューマチックアンローダをはじめ、搬送（コンベヤ）から貯蔵（ヤード機械・サイロ）まで幅広いラインナップを揃えています。

フローティングクレーン



海洋構造物、橋梁等の据付、架設などに使用される大型起重機船です。海洋プラントの建設や造船などに活躍の場を広げています。

生産拠点

呉工場（広島県呉市）



生産品目：建設用ジブクライミングクレーン・
港湾用ジブクレーン・フローティングクレーン・
連続アンローダ・スラブリフタなど
建物面積：13,128 m²
土地面積：36,331 m²

売上高(25年)

	25年 1-12月	前年比較	
		増減額	増減率
合計	5,507	5,507	－

ジブクライミングクレーン



クレーン自体が昇降することにより建設現場に革命を起こしたジブクライミングクレーン。超高層ビルやタワーマンション現場の建設用クレーンとして活躍しています。

バルクハンドリングシステム	連続アンローダ、穀物用・バイオマスペレット用アンローダ、コンベヤ
ジブクライミングクレーン	ジブクライミングクレーン、陸上風力用タワークレーン、鉄塔建設用クレーン
ジブクレーン	ジブクレーン、ダブルリンク式クレーン
港湾荷役用クレーン	リングリフトクレーン、多目的クレーン
フローティングクレーン	フローティングクレーン
リングリフトクレーン	リングリフトクレーン

その他

05 | Others



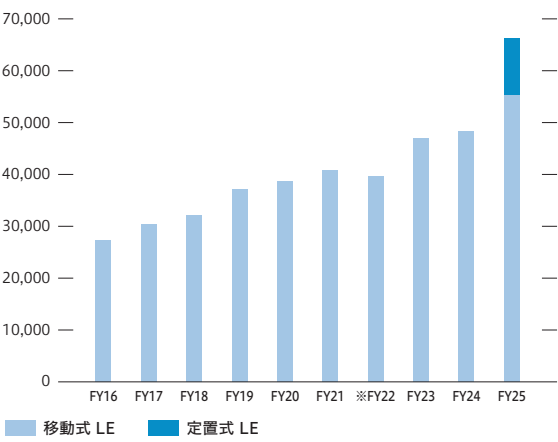
売上高

部品、修理、中古車等のその他の売上高は、IHI運搬機械株式会社の運搬システム事業（現：タダノインフラソリューションズ）買収もあり、662億7千7百万円（前期比136.7％）となりました。

売上高(24年・25年比較)

	24年 1-12月	25年 1-12月	前年比較	
			増減額	増減率
移動式 LE	48,474	55,387	6,912	14.2％
定置式 LE	－	10,890	10,890	－
合計	48,474	66,277	17,803	36.7％

売上高(16年度～25年度推移)



※2022年度に連結対象会社の決算日を12月末に統一したため、FY21以前は3月期決算、FY22以降は12月期決算となります。
また決算期変更の経過期間となるFY22は9カ月変則決算数値となります。

感動サービスの提供



クレーンのダウンタイムはお客さまのビジネスの損失に直結するため、当社では「感動サービスの提供」に取り組んでいます。ビフォーサービスでは、HELLO-NETを活用し、お客さま、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスパック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「Tadanoエンジンケアパック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による故障の減少を目指しています。アフターサービスでは、日本においては10支店と22営業所に加え、全国360カ所の認定サービス工場と823名の認定サービスエンジニアによるサービス体制を構築しています。海外では当社、グループ会社、代理店等による100カ所を超えるネットワークにより、世界をカバーしています。その他体制整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地開催だけでなく、IT技術を取り入れWEBを活用し遠隔地からでも受講を可能とした技術講習会のほか、トレーニングセンターでの体系的、かつ先端技術を取り入れた教育で、日本・海外のサービスエンジニアの人財育成を進めています。また、VR（バーチャルリアリティ／仮想現実）を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。